

サニトラの板金作業

運動場に土を入れたり大きなトンボをひっぱったりと運動会に向けてサニートラックが活躍した。荷台が低く使い勝手がよく、ボンネットがあり軽トラックと比べると衝突時に安全な気がして結構気に入っている。十年前に本当にボロボロの状態で購入し、一年かけて復活させた車なので、しばらくするとどうしてもさびて朽ちてくる。先日洗車をしていて、塗装面がふくらんでひびがはいたなあとつついていると、鉄板が薄くなるほど腐食していることがわかり板金作業をすることにした。

後ろのあおり（荷台の扉）の下は、買った時にはザクザクにさびていて八分方は作り直した部分だ。グラインダーでさびを削っていくとどんどん範囲が広がって結構大変な作業になった。板金工場では、ガス溶接やMIG溶接で溶接するのだが、用具が高価で素人には手が出ない。アーク溶接機は持っているけれど、薄板溶接には向かない。私は鉄板をリベットで固定し、つなぎ目をハンダ付けする方法で補修している。ハンダ付けが終わるとリベットの頭をグラインダーで削り、ハンマーで慎重にたたいて沈めパテを盛る。この方法だと素人でも何とか形になる。サンドペーパーで根気よく削り成形できると塗装にかかる。下地のプラサフを吹く時にちょっとしたコツがある。鉄が露出している部分とパテの部分ともとの塗装面とでは、塗料の乗りが違うのでそのまま吹くことでこぼこになる。やかんに湯を沸かし、熱湯の中にプラサフのスプレー缶をつける。そして、塗装面をドライヤーで温める。軽く吹いてはドライヤーで乾かし、乾かしてはまた吹くを5回程度繰り返すと滑らかな塗装面が出来る。ここまでできれば上塗り作業だけ。はじめは薄く、途中からはつやを出すためにスプレーを近づけて厚めに吹く。垂れができる直前が一番いいが、なかなか難しい。

人から見ればただのボンコツトラックだけれど、板金作業を繰り返しその度に直ったことがうれしくて最近は何となく愛着を感じている。教頭先生が今週からプリウスの新車に乗ってきている。あれだと鉄板に防錆処理がされ、防錆対策も行き手届いていて朽ちることはなからうとうらやましく思う。でも、平成2年式のオンボロなサニトラを手放す気は更々ない。

